

会員の皆さま

岩手県精神保健福祉士会 令和5年度 第1回スキルアップ研修

アセスメント技術を高めるために

— BPS モデルのアセスメントに基づいたケースマネジメントを身につける —

2023年度が始まりました。春先にはニューヨークタイムズの「2023年に行くべき52か所」第2位に盛岡が選ばれ、WBCでは岩手出身の大谷選手や佐々木選手が大活躍する等、明るいニュースが続きましたね。今年度が会員の皆さんにとって実りある一年になることを願っています。

さて、今年度最初の研修は「アセスメント」をテーマとしました。相談支援従事者初任者研修や重層的支援体制整備事業でもおなじみの大正大学名誉教授近藤直司先生を講師にお招きします。先生からのコメントを紹介します。

まず、医療・保健・福祉領域のアセスメントを「一つ一つの情報を自分なりに解釈し、それらを組み立て、生じている問題の成り立ち mechanism を構成し（まとめ上げ）、支援課題を抽出すること、あるいは、その人がどんな人で、どんな支援を必要としているのかを明らかにすること」と定義しておきたいと思います。

アセスメントの技術を高めるためには、情報の収集と整理（インテイク）—評価（アセスメント）—支援計画（プランニング）という3つの作業過程を意識すること、とりわけ「情報」と「評価（アセスメント）」の違いを明確に意識することが決定的に重要です。また、『生物—心理—社会モデル』を理解し、使いこなすことによって、包括的でバランスのよいアセスメント技術が身につくと思います。

精神保健医療福祉の幅広い現場で役立つ研修になると思います。また、今回は久しぶりの集合研修となります。皆さんと直にお会いできることを楽しみにしております。

（日 時）令和5年6月3日（土）14:30～17:30

（内 容）講話・演習「アセスメント技術を高めるために」

—BPSモデルのアセスメントに基づいたケースマネジメントを身につける—

講師：大正大学 名誉教授 近藤直司 先生

※質疑応答の時間を設ける予定です。

（受講形式）

集合形式（定員20名、先着順） 会場：アイーナキャンパス学習室4

（対象者）

岩手県精神保健福祉士会の会員、または（公社）日本精神保健福祉士協会岩手県支部の支部構成員

（申込方法）

- ・別紙申込書に必要事項を記載の上、FAX又はメールにて申込み
- ・右記QRコードを読み取り、googleフォームにて申込み

（申込締切）

令和5年5月31日（水）

（申込先）

岩手県精神保健福祉士会 事務局 【FAX】0198-24-1721



【講師】

こんどう なおじ

近藤 直司 先生



≪ 略歴 ≫

東海大学医学部卒。山梨県立精神保健福祉センター所長、山梨県都留児童相談所所長、東京都立小児総合医療センター児童・思春期精神科部長、大正大学心理社会学部教授として勤務。

現在の資格・役職は、精神科専門医、子どものこころ専門医、日本思春期青年期精神医学会副会長、日本精神分析学会認定精神療法医・認定スーパーバイザー、大正大学名誉教授。

近著は、「青年のひきこもり・その後」（岩崎学術出版社、2017）、「ひきこもり問題を講義する」（岩崎学術出版社、2019）、「アセスメント技術を高めるハンドブック 第3版」（明石書店、2022）。